別添１

基本評価シート（ニホンジカ）

様式

（岐阜県　農政部農村振興課鳥獣害対策室）

基本評価シート（ニホンジカ）

１．事業の基本情報

事業名（※１）	岐阜県指定管理鳥獣捕獲等事業		
都道府県名	岐阜県	担当者部・係名	農政部農村振興課
捕獲実施事業者	（一社）岐阜県猟友会	担当者連絡先	058-272-8422
		予算額（※２）	308,211,200 円
		予算額の内捕獲に要する経費（※３）	19,861,600 円

（※１）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。
（※２）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。
（※３）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成 28 年度から適用される交付金所要額調書様式１－２「２指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和５年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標（目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
700 頭	601 頭	85.9%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
70,691 頭	15,000 頭	3～5 頭/ km^2
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲（個体数調整）
－	5,706 頭（暫定数）	5,006 頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

野生鳥獣個体数管理事業（個体数調整捕獲事業）

２．令和５年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	本県ではニホンジカによる農林業や自然生態系への影響が顕在化しており、令和 3 年 3 月に第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）第 3 期を策定し、計画期間中に年間 15,000 頭の捕獲（狩猟、許可捕獲等）を目指すこととしている。第 3 期計画開始当初までの捕獲頭数は概ね 11,000～14,000 頭/年で推移しており、目標頭数に至っていなかった。 このため、ニホンジカによる農作物被害額が多く、捕獲圧を高める必要がある市町村において本事業を実施した。
	【選択欄】 ☑ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。 ☐ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。 ※事業実施目的に最も近いものを１つ選択。
人材育成の観点	☑ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和５年４月１日～令和６年３月３１日 （うち、捕獲作業を行う期間） 令和５年４月１日～令和６年３月３１日
実施区域	本巣市・揖斐川町・大野町・池田町 （捕獲圧を高める必要がある地域で実施した） ※実施区域位置図別添
関係機関との協力	受託事業者・行政・警察を含めた緊急時連絡体制を整え、事業に臨んだ。
事業の捕獲目標	（８５．９%達成）＝（６０１頭　実績値）／（７００頭　目標値）
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃　☐ 巻き狩り　☐ 忍び猟 ☐ モバイルカリング　☐ 夜間銃猟 ☐ その他（　　） 【わな猟】 ☑ くくりわな　☑ 箱わな　☐ 囲いわな ☐ その他（　　） ※１：各種猟法の定義は〇ページ参照、※２：複数チェック可
捕獲個体の確認方法	☑ 個体の身体の一部（尾） ☑ 写真（詳細を記載： 捕獲個体全体とわなに添付した標識が写っていること。 捕獲場所が特定できる日付入りであること。 捕獲個体にはわなの標識に付した通し番号と捕獲日を捕獲個体にペンキ等で記入するか、ホワイドボード・黒板等に記入し、捕獲個体と一緒に撮影すること。） ☐ その他（　　） ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☑ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☑ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。
	わなによる錯誤捕獲の未然防止について

	☑　錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：餌付け中に足跡を確認するよう指導） ☐　錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	鳥類の鉛中毒等について ☑　鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐　鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	鉛製銃弾について ☑　全て鉛製銃弾を使用している。 ☐　一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐　全て非鉛製銃弾を使用している。 （止めさしにおいても銃の使用無し）
安全管理の体制	本県の鳥獣捕獲における地理条件を熟知し、安全かつ効率的に事業を実施できる能力と人員の配置調整ができる体制を有する法人に委託した。また、行政・警察・救急医療情報センターも含めた緊急時連絡体制を整え事業に臨んだが、事故なく捕獲事業を実施することができた。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：２８人 （内訳） 正規雇用者：　人、期間雇用者：　　人　　日当制：２８人

３．令和５年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1．捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評　価：捕獲目標 700 頭/4 市町に対して、実績は 601 頭であった。
	改善点：実施期間、実施区域等について、関係者と十分な調整を行うと共に、従事者の確保を図り実施する。
【実施期間】	評　価：早期の地元調整が完了したことにより、実際の捕獲は 4～3 月の実施となった。
	改善点：関係者との事前調整を引き続き早急に行う。
【実施区域】	評　価：ニホンジカ生息地並びに農作物被害の大きい地域のうち、捕獲圧を高める必要がある市町に限定して行った。
	改善点：次年度においても引き続き生息状況、農作物被害、捕獲圧の高さ等を踏まえて実施区域の選定を行う。
【捕獲手法】	評　価：わな猟（くくりわな・箱わな）で実施し、事故なく事業を実施することができたが、捕獲頭数は目標に至らなかった。
	改善点：次年度も同様にわな猟を中心とした捕獲を行う。
2．体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：委託先は捕獲従事者を２８名確保し、安全かつ効率的に事業を実施できる能力と人員の配置調整ができる体制がとれた。
	改善点：捕獲を円滑に進めるため、地元関係者と調整の上、事業実施する。
【個体処分】	評　価：焼却、埋設、食肉利用により、すべて適正に処分した。
	改善点：次年度事業においても適正な処分を推進する。
【環境配慮】	評　価：錯誤捕獲の防止に向けて、文書等で周知すると共に、クマの目撃情報や錯誤捕獲が発生した個所については、わな設置個所を変更した。 捕獲従事者を対象とした説明会等で非鉛弾の使用を啓発したが、実施には至らなかった。
	改善点：次年度も錯誤捕獲の防止に向けて、文書等で周知すると共に、クマの目撃情報や錯誤捕獲が発生した個所については、わな設置個所を変更する。 次年度の仕様書には、可能な限り「非鉛弾」の使用に努めることを明記し、使用に向けた啓発を継続する。
【安全管理】	評　価：安全かつ効率的に事業を実施できる能力と人員の配置調整がで

	きる体制を有する法人に委託した。また、行政・警察も含めた緊急時連絡体制を整え事業に臨んだ。
	改善点：次年度においても同様の体制で事業を実施する。 ツキノワグマとの遭遇・錯誤捕獲を防ぐため、文書等による通知を行い、安全な捕獲活動を徹底する。
3．その他の事項に関する評価及び改善点 －	
4．全体評価 捕獲実績は目標頭数未達成となったが、前年度よりも多くの従事者及び捕獲頭数を確保したことから、捕獲圧の維持に寄与できた。	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

令和５年度は目標捕獲頭数に達しないとともに、さらに当該事業においては前年度を下回る捕獲実績となったが、第二種特定鳥獣管理計画における適正な生息数の維持に寄与していると考えられる。

４．必須となる記録項目

（１）データの整備状況

ア）基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項　目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☑ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☐ ５㎞メッシュ ☐ １㎞メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☑ 捕獲した個体の総数 ☐ 雌雄の別 ☐ 幼獣・成獣の別 ☐その他捕獲した個体に関する情報 （　　）	

③目撃数	☐ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☐ 銃猟：のべ作業人日数※ ☑ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日： 捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ）捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	☐ ５ｋｍメッシュ地図 ☐ １ｋｍメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☑ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☐ ５ｋｍメッシュ地図 ☐ １ｋｍメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☑ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☐ ５ｋｍメッシュ地図 ☐ １ｋｍメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☑ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア）捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 人日

事前調査人日数概数※2： 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 人日

項　目	平成　　年 （事業年度の値）	平成　　年 （前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	人日	人日	☐増加 ☐減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 4,804 人日

事前調査人日数概数※2： 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 4,804 人日

項　目	令和　５　年 （事業年度の値）	令和　４　年 （前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	45,640 基日	15,500 基日	☑増加　□減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ）捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項　目	令和　５　年 （事業年度の値）	令和　４　年 （前年度の値）	増減の傾向
①捕獲数	ー　頭	ー　頭	□増加　□減少
②目撃数	ー　頭	ー　頭	□増加　□減少
③雌雄比 （雌捕獲数／全捕獲数）	ー （頭／頭）	ー （頭／頭）	□増加　□減少
④幼獣・成獣比 （幼獣数／全捕獲数）	ー　％ (頭／頭)	ー　％ (頭／頭)	□増加　□減少

令和４年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
□　誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少
□　巻き狩り	頭	人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少
□　忍び猟		人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少
□　モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少
□　夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少
□　その他 （　　）	頭	人日	頭/人日 □増加 □減少	頭/人日 □増加 □減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項　目	令和　５　年 （事業年度の値）	令和　４　年 （前年度の値）	増減の傾向
①　捕獲数	601 頭	140 頭	☑増加　☐減少
②雌雄比 （雌捕獲数／全捕獲数）	－%	－%	☐増加　☐減少
③幼獣・成獣比 （幼獣数／全捕獲数）	－頭	－%	☐増加　☐減少

令和５年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
☑　くくりわな	601 頭	45,640 基日	頭/基日 ☑増加　☐減少
☐　箱わな	頭	基日	頭/基日 ☐増加　☐減少
☐　囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐増加　☐減少
☐　その他 （くくりわな・箱わなの種別不明）	頭	基日	頭/基日 ☐増加　☐減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

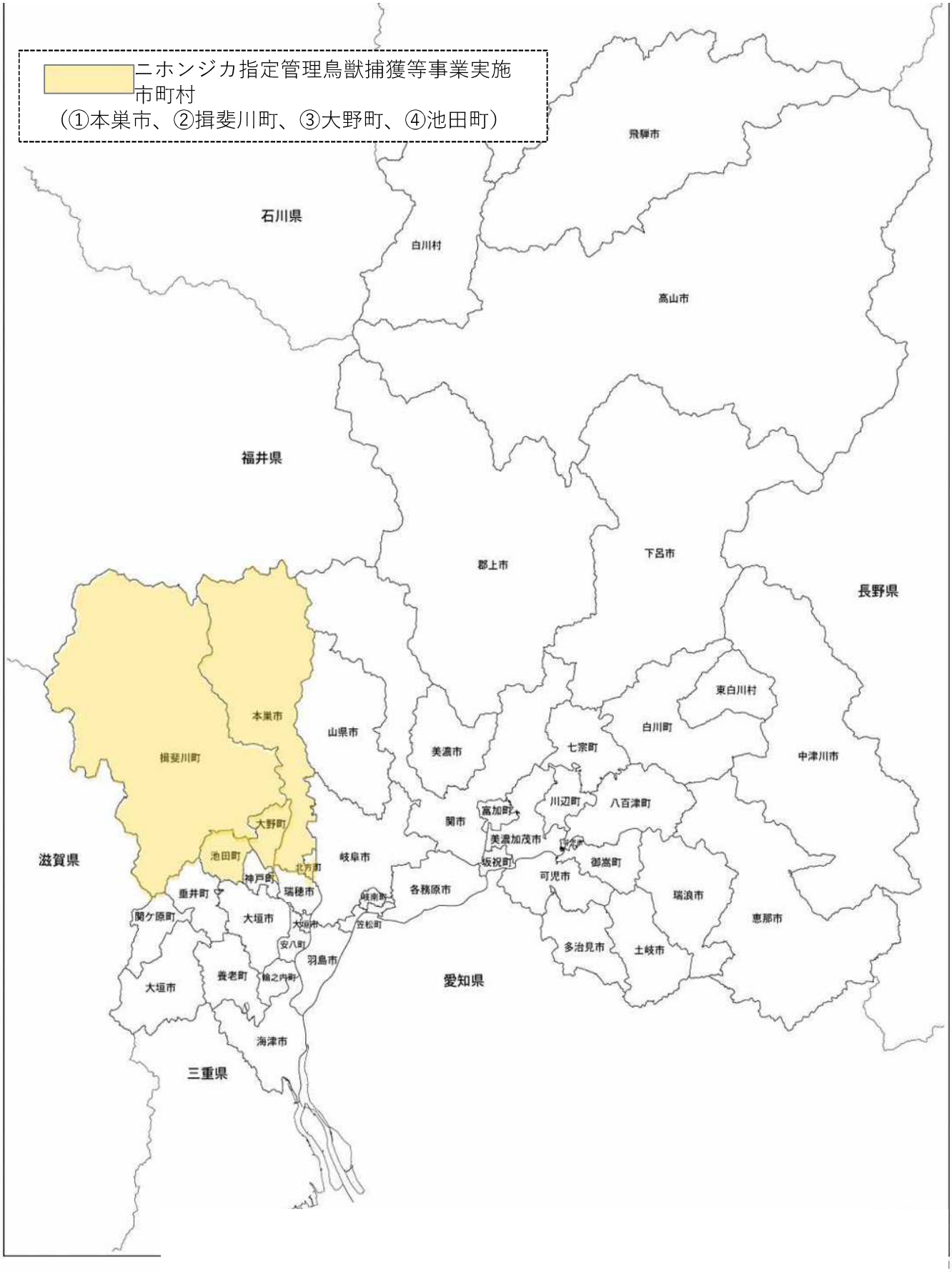
※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

ウ）捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数：（不明）人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数：554 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法
捕獲個体の写真及び尾により確認した。 捕獲個体の利活用を目的として食肉処理施設等へ持ち込んだ場合は、当該施設等で利用されたことを証明する証拠書類及び尾で確認した。

R5ニホンジカ指定管理鳥獣捕獲等事業実施市町
（R5.4.1～R6.3.31）